

スマートシティ構想に関して

1. 目的・背景

- 近年、アゼルバイジャン政府は、汚職撲滅及びシャドーエコノミーの縮小を目指して改革を推進。政府は、その一環として、行政手続を単一窓口化したASAN・DOSTサービスセンターを各地に設立し、行政手続きの透明化（電子政府化）や徴税及び税関手続きの電子化を進めている。
- 電子政府の更なる具現化を目的として、「オープン・ガバメント促進に係る2020-2022年のアクションプラン」（“The National Action Plan on the Promotion of the Open Government for 2020-2022”）が2020年2月27日付の大統領令によって承認。同プランに含まれる10のサブプログラムの一つ、「国家機関によるサービス改善」の中で「スマートシティ」のコンセプト策定及びパイロットプロジェクト実施が義務付け）。

2. 実施機関・スケジュール

以下の3機関（国家機関）がバクー市を対象とした「スマートシティ」コンセプトの策定を実施。実施期間は2020年～2021年。

- ・ 運輸通信ハイテク省
(The Ministry of Transport, Communications and High Technologies)
- ・ 国家公共サービス・社会イノベーションエージェンシー
(The State Agency for Public Service and Social Innovations)
- ・ 国家都市計画建築委員会
(State Committee on Urban Planning and Architecture)

3. コンセプトの詳細

- 現在コンセプトは策定段階にあり、詳細情報は未公表。
- 米シスコシステムズ社がIoT技術を使用した複数のインフラシステム（水・電気・輸送等）の統合、蘭シグニファイ社が照明設置において協力・提案を行う予定（公開報道情報）。

（参考）「2040年までのバクー市都市開発マスタープラン」

- ・ 国家都市計画建築委員会が主体となって同マスタープランを策定中（2020年末までに完成予定）
- ・ 昨年、独AS+P社が同プランのコンサル業務に係る国際入札を受注。
- ・ 同マスタープランの素案にも「スマート・シティ」コンセプトが盛り込まれている（右写真：構造図）。

（素案へのリンク：https://arxkom.gov.az/planlar/200322_DBGP_Exhibition_Board.pdf）

